

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↓ 取り組んでいきたい項目

事業所名：グループホームふるさと敷島

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

事業所名：グループホームふるさと敷島

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々から認知症の相談があれば受けている。人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っている。	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義や目的を全職員が理解するため、職員会議の中で勉強会を行っている。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表者やご家族には意見をたくさんいただいている。他の立場から見た具体的な意見が多く職員会議で話し合いを行い、必要な点は改善へ向け取り組んでいる。	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	問題点や不明な点が生じたときには、都度相談にのってもらい助言を頂いている。市の福祉課長に運営推進会議に参加していただき、事業所の実情等を伝えアドバイスをもらっている。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加し、権利擁護や成年後見制度についてとらえている。	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「リスクマネジメント」の研修を受講し、虐待への理解、徹底防止に努めている。全職員が理解し実施している。	

事業所名：グループホームふるさと敷島

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に書面で家族に説明し、納得した上で押印していただいている。疑問点などが生じた場合は都度、対応している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で利用者の不満や思い、要望を聞くことができるよう、ゆったりと過ごすように心がけている。職員が感じた事があれば随時話し合いを行う。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	体調の変化、日常生活の様子など都度、家族に報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内での苦情の窓口を設置している。又、公的な相談窓口の連絡先を契約時に書面と口頭で説明している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出来る限り全職員出席のもと、職員会議を毎月行い、いろいろな発想で意見を出し合っている。職員間でよく検討し、都度対応している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族の要望による病院受診時の付添いや、個人的な外出にも勤務の調整をしながら対応できている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は行わず、顔なじみの職員による体制が継続できている。体調不良による離職があるが、利用者、家族への影響がないようゆとりのある人員確保をしている。		

事業所名：グループホームふるさと敷島

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には積極的に参加し、その後は必ずミーティングを職員で行っている。情報や研修内容の共有が出来るようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH協会の研修会への参加や、市内のGH職員が集まる担当者会議に参加し意見交換をしている。他のGHの良い点があれば積極的に取り入れている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が休憩できるスペースがあり、職員同士の食事会等でストレスが少しでも解消できるよう機会を設けている。職員同士の人間関係を把握するよう努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修の参加については勤務時間内扱いにしている。資格取得へのサポートとして講座費用を事業所が出している	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前にご本人と直接会い、話を聞いている。入所してしばらくはご本人が不安であると思うので、新しい環境への不安を少しでも取り除けるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人の状況やご家族の思い、要望をよく聞き、少しでも思いに添えるよう努力している。入所当初は特に日々の様子を家族に伝えている。	

事業所名：グループホームふるさと敷島

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望のお話を受けてから、ご家族、職員、ケアマネージャーなどよく話をした上で対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の状況を一番に考え、家族と話し合いながら対応している。出来る限り馴染みの物品を持ってきてもらったり、一日も早く安心して過ごして頂けるよう職員が常に心配りをしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人が何に喜びや不安を感じているのかを察して、共にその気持ちを分かり合えるよう配慮している。また、教えてもらった時には感謝の言葉を伝え共に和やかに生活できるようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員が同じ気持ちで利用者を支えられるよう、情報を交換し、家族職員間で統一できている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人からでた思いを職員だけが把握せず、家族にも伝え本人と関わってもらえるよう、利用者の日頃の状態を報告している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や近所の方が会いに来てくださったり、一緒に外出することもある。面会時間の制限はなく、外出等前向きに支援している。新聞のお悔やみ欄を毎日確認して、知人が亡くなられていないか話をする。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活のかかわりの中で利用者同士の関係を把握し、孤立しがちな利用者には職員が寄り添い支援している。利用者同士で助け合う場面もよくある。(着替えの手伝いや、散歩のときにそっと手をひくなど)		

事業所名：グループホームふるさと敷島

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された利用者の家族と連絡をとったり、ご本人に会いに行っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思いをゆったりした時間を作り聞き、職員全員が共有できるよう書き留めている。意思疎通が困難な方にはご家族や関係者から情報を得るようにしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族から得られる情報を聞いている。入所後も本人家族から都度話を聞いている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態等、具体的に個別日誌に記録している。本人が今、行っていないことでも出来ることを本人の生活を見て把握するよう努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の話をよく聞きその内容をもとにケアカンファレンスを毎月行っている。一人ひとりの気持ちを重視し介護計画を作成している。センター方式を取り入れている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化があった場合は期間終了前にも見直しをしている。その際にも本人、家族からの思いや意見を聞いている。	

事業所名：グループホームふるさと敷島

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には食事摂取量、バイタルチェックの記入はもとより、本人の言葉等記録し、日々の生活リズムの把握、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の病院受診や面会時ご家族の送迎など本人や家族の状況や要望に応じて対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアや学校教育の一環で行われている職場体験研修などを受け入れている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望で訪問理美容サービスを利用してもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今は必要性がない	○	今後必要性があるケースが生じた場合は地域包括支援センターに相談しながら進めていきたいと考えている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望に応じた「かかりつけ医」を決めている。受診や通院は家族同行だが不可能なときには職員が行っている。受診結果については都度家族に報告し情報を共有している。		

事業所名：グループホームふるさと敷島

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	理事長の義弟が精神科医でボランティアで来所している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師がおり、利用者の健康管理・状態変化に応じた支援を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は付き添っていく。早期退院が出来るよう、病院、家族と話をしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日々の健康管理には気を配りバイタルチェックは毎日行っている。緊急時のマニュアルがあり職員間で徹底している。状態の変化があるごとに家族の気持ちの変化や本人の思いに注意をはらい支援につなげている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の変化に備えて家族と話をしている。職員の終末期に対する不安や技術の向上について話し合っている。本人の気持ちを大切にしつつ、安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の日常生活の様子を何度か見て頂き、習慣や状態を日誌等から細かにお話している。その後も面会に行き、住み替え先との情報交換をしている。		



事業所名：グループホームふるさと敷島

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりにあわせた言葉かけや対応を職員全員が心がけている。トイレ誘導時など他の利用者にわからないようにするなど、言葉かけや対応に全職員が日頃から注意をはらっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の行きたい場所や、したいことなど時間がかかっても職員と一緒に待ち決める。食事のメニューや普段着等、本人が何を食べたいか何を着たいかということを決めてもらっている。普段の食事でも本人の好みを把握するよう努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物などなるべく、そのときに対応するよう努力している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	近所に美容院があり、行きたい時に予約をし自由に行ける。気候に合わせた服を何枚か用意して自分で着たい服を選んでもらっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを一緒に考える。食事の準備もそれぞれが出来ることに参加している。職員も一緒に食事をしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物に行ったときに好きなおやつや飲み物を買って、楽しんでいただいている。100円を渡し、前の自販機で好みの飲み物を買ってもらっている。	

事業所名：グループホームふるさと敷島

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックをしている。ホーム内と外出時や失禁の状態をみながらリハビリパンツと肌着で使い分けている。時間や習慣を把握しトイレ誘導することでトイレでの排泄を促している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自由に入浴できる時間を決められ長さもバイタルに問題がなければ、特に制限はしていない。女性の利用者は同性職員の対応をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の状態に合わせて昼寝(15分～30分)をしたり、ホーム内の数箇所にソファが置いてありくつろぐことができる。夜、眠れない方に対しては日中の活動でリズムを作れるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の出来ること探しを行い、利用者自ら楽しみが持てるよう支援している。職員の満足感や強制になることのないよう注意している。個々の得意分野での役割を本人の意思、職員の援助で行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には財布を持ってもらっている。困難な方にも週に2回ヤクルトに来てもらいたい欲しいものを自分で買っていただき支払ってもらおうなどの工夫をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩など個々のペースや希望に合わせて外出している。外気に触れることで季節を肌で感じてもらう心身の活性につなげるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の墓参りに出かけたり、県外での親族の法事など家族や職員が付き添い支援している。		

事業所名：グループホームふるさと敷島

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話使用の時は自室に子機を持っていく。知人や家族に手紙を書き、散歩をしながら郵便局に立ち寄ることもある。玄関先には入居者一人ひとりの名前が入った郵便受けがある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会に来られるよう時間は自由としている。訪問者が面会しやすいようホールや自室などを案内している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという信念を全職員が理解し実施している。自覚しない身体拘束が行われていないか申し送り等でケアの振り返りを行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵はかけないを徹底している。利用者の様子を見守り、理解し常に職員同士で声をかけあっている。外出しそうになったらさりげない声かけをしたり一緒についていく。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入室時には必ずノックをして同意を得てから入室している。ホールには必ず職員がいて離れるときには声をかけている。夜間は巡視を実施している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬については利用者の目に触れないところにおいてある。日常生活で必要な歯磨き粉等は置いてあるが、常に利用者の状態を把握し、危険がないかを職員が確認している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「ひやりはっと」を記録し職員会議で話し合い再発防止に向けた検討を行っている。		

事業所名：グループホームふるさと敷島

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や吸引機での吸引など訓練をしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網を使い避難訓練を実施している。災害に備えて飲料水など備蓄している。運営推進会議で協力を呼びかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時には本人の日々の様子を伝え、リスクについても話をしている。抑制するのではなくどうやってそのリスクを減らすかの対策を家族に説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の普段の体調を把握していて、普段と何か違うと思ったら、バイタルチェックを行い記録し状態により受診につなげている。申し送り時には必ず詳しい様子を伝えている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの「薬セット」で管理し、食前食後に服薬支援をしている。各利用者の薬の内容がわかるようファイルし薬の目的等、把握できるようになっている。薬の変更追加があった場合は連絡ノートで徹底している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の方にはおやつにヨーグルトを食べていただいたり入浴時に腹部のマッサージをしている。運動を促したり水分量にも気をつけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きを言葉かけで対応している。義歯の洗浄、管理をしている。		

事業所名：グループホームふるさと敷島

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックをしている。水分摂取は朝昼夕食時、10時、15時のお茶、入浴後等、こまめに飲用している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事、お茶の前には手洗い、手の消毒を実施している。インフルエンザの予防接種は全員が受けている。玄関先に感染症に対しての資料を貼り、面会者等にも消毒を促している。感染症予防対策のマニュアルがあり、勉強会を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルをもとに調理用具やふきん等の漂白など、職員全員が実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に木のイスとテーブルがあり、いつでもくつろぐことができる。近所の方にも気軽に立ち寄っていただいている。季節の花をプランターに植え、散歩をする近所の方との会話のきっかけにもなっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	割烹旅館の設備を利用しているため、台所が広い。廊下が広く利用者の方々の作品などを展示し、話題作りに活用している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや玄関入り口にソファがあり、自由に過ごせる空間がある。ホールの隣りに自由お茶を飲んだり、休むことができる場所がある。		

事業所名：グループホームふるさと敷島

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の意向や本人の好みにより異なるが、家で使用していたタンスや布団、家具等使い慣れたものをもってきていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	それぞれの居室、廊下、ホールに温度計があり、まめに職員が温度調節を行っている。広い廊下を活用し、本人の希望を聞きながら換気もこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のレベルに合わせて手すりを設置してある。台所の入り口、トイレの入り口にはスロープを設置。物干し竿の高さを調節できるものを使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各自の居室の入口に本人の顔写真を貼ったり、トイレやお風呂がわかるプレートを置き、混乱せずに日常生活が送れるよう、工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭先が広いので、庭にイスやテーブルを置き、日光浴を楽しむことが出来る場所がある。学校帰りの子供たちに声をかけたり、近所の方との語らいの場にもなっている。		

事業所名：グループホームふるさと敷島

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

散歩や買い物をしていると近隣の方々が笑顔で挨拶をしてくださいます。お気に入りの美容院を見つけ通う利用者や、「化粧品はこのお店で買うの」と近所の商店の方々とも顔なじみになっています。日差しが穏やかな天気の良い日は庭先にあるイスに腰掛け、みんなで日光浴をしたり歌を歌ったり……。普段に増して会話が一段とはずみます。近所の子供たちが遊びに来て楽しく触れ合いながら地域に解け合った生活を送っています。外出時には利用者さん同士がさりげなく手をつないだり、着替えを手伝ったりと微笑ましい日常がたくさんみられます。